

論文要旨

論文題目 臨床中堅看護師の能力尺度の開発

氏 名 赤嶺伊都子

要 旨

目的：本研究では、病院における臨床中堅看護師のアセスメントおよび評価をするための臨床中堅看護師の能力尺度（the Competence Scale for Senior Clinical Nurses；CS-SCN）の開発を行ない、その尺度の信頼性および妥当性を検討することを目的とした。

方法：日本の A 病院において、臨床看護師（n=374）を対象とした無記名自記式質問紙を用いた横断質問紙調査を行なった。有効回答は 218 人であり、それを分析対象とした。統計解析には、探索的因子分析と確認的因子分析を行ない、内的整合性および構成概念妥当性を検討した。

結果：臨床中堅看護師の看護能力として 22 項目からなる 5 因子解が抽出された。それは解釈可能な質問紙であった。確認的因子分析において、適合指数がこれらの結果を支持していた。総スコアのクロンバッハ α 係数は 0.93 であり、5 因子のクロンバッハ α 係数は 0.63 から 0.90 であった。5 因子の累積寄与率は 66.7%であり、斜交回転因子分析によって、役割遂行能力（Role accomplishment）、自己管理能力（Self-management）、研究能力（Research）、高度な実践と調整能力（Practice and Coordination）および業務遂行能力（Work implementation）の 5 因子が抽出された。5 因子はそれぞれと中程度の関連性があり（0.30-0.77, $P<0.001$ ）、それらは構成概念妥当性を示していた。

結論：臨床中堅看護師の能力を測定し評価するための簡便な尺度である CS-SCN を開発した。開発された尺度は、臨床中堅看護師の能力を測定するための新しい尺度であり、尺度の妥当性と信頼性は検証された。しかし、さらなる改良、検討、評価が必要である。今後、CS-SCN を用いた研究を行なうことにより、臨床中堅看護師の能力の向上を導く可能性がある。

Abstract

Title

Development of competence scale for senior clinical nurses

Name

Itsuko Akamine

Abstract

Aim: The aim of this study was to develop a new scale, the Competence Scale for Senior Clinical Nurses, to assess and evaluate senior clinical nurses in hospitals, and to confirm the validity and reliability of the scale.

Method: A cross-sectional questionnaire survey was undertaken at a hospital in Japan, using an anonymous self-administered questionnaire administered to clinical nurses (n=374). A useable sample of 218 was achieved, which was used in the analysis. Statistical analysis examined exploratory/confirmatory factor analysis, internal consistency, and construct validity.

Results: A five-factor solution with 22 items was extracted for nursing competence in senior clinical nurses, which was the interpretable questionnaire. In the confirmatory factor analysis, the indices of fitness supported these results. The Cronbach's alpha coefficient was 0.93 for the total score and varied between 0.63 and 0.90 in the five factors. Five factors emerged from an oblique factor analysis, with a cumulative variance of 66.7%: "Role accomplishment," "Self-management," "Research," "Practice and Coordination," and "Work implementation." The five factors had only a moderate correlation (0.30-0.77, $P<0.001$) with each other, which indicated construct validity.

Conclusions: We developed the CS-SCN, a concise scale to measure and evaluate the competence of senior clinical nurses. Results suggest initial support for the new instrument as a measure of competence of senior clinical nurses, but it must be further refined, tested, and evaluated. Both the validity and reliability of the scale were verified. Future studies using the CS-SCN might lead to improvement in the competence of senior clinical nurses.

平成24年3月29日

琉球大学大学院

保健学研究科後期課程委員会 殿

論文審査委員

主査 氏 名 宇座 美代子

副査 氏 名 垣花 シゲ

副査 氏 名 國吉 緑



学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名 保健学	氏名 赤嶺 伊都子	学籍番号	■■■■■■■■■■		
指導教員名	宇座 美代子					
成績評価	学位論文	合格	不合格	最終試験	合格	不合格
論文題目	Development of Competence Scale for Senior Clinical Nurses					
<p>1. 研究の背景と目的</p> <p>適切で効果的な看護能力を育成するためには、看護継続教育は重要であり、継続教育の結果・効果の評価と看護能力の測定・評価も重要である。日本においては、高度な看護実践ができる看護師として、専門看護師や認定看護師制度が確立され、教育や資格認定の仕組みが確立されている。しかし、臨床現場における中堅看護師の多くはジェネラリストである。新人看護師に求められる看護能力の測定に関する研究は多いが、病院における中堅看護師の看護能力の測定尺度に関する尺度は一般的に利用可能なものはほとんどない現状にある。本研究は、中堅看護師の能力を評価するための、中堅看護師の能力尺度（the Competence Scale for Senior Clinical Nurses ; CS-SCN）の開発を行ない、その尺度の信頼性および妥当性を検討したものである。</p> <p>2. 研究内容</p> <p>本研究は、測定尺度開発のために3段階のプロセスを経ている。第1段階では、中堅看護師に求められる能力の同定を行ない、それをもとに第2段階では質問項目の作成をしている。第3段階では、第2段階で作成したその質問項目を用いた横断的無記名自記式質問紙調査と探索因子分析および確認的因子分析を行なっている。調査はA市立病院において全看護師374人を対象として行ない、有効回答218人（回収率：58.3%）を分析対象とした。統計解析には、SPSSおよびSPSS Amosを用いて探索的因子分析と確認的因子分析を行ない、内的整合性および構成概念妥当性を調べた。</p>						

(次頁へ続く)

3. 結果および考察

作成した 29 項目の看護能力の質問項目について、項目分析および初期の因子分析で因子負荷量が 0.3 以下であった 7 項目が削除され、最終的に 22 項目で因子分析が行われた。因子分析では、Kaiser Meyer Olkin (KMO) 測度が 0.916 で、有意確率は 0.001 以下であった。探索的因子分析により、5 因子の固有値は 1.0 以上であり、全ての質問項目の因子負荷量は 0.3 以上であり、5 因子、22 項目が抽出された。5 因子の寄与率は、それぞれ 43.6%, 7.3%, 6.5%, 4.7%, 4.6%, であり、累積寄与率は 66.7% であった。中堅看護師の看護能力として抽出された 5 因子は、役割遂行能力 (Role accomplishment)、自己管理能力 (Self-management)、研究能力 (Research)、実践と調整能力 (Practice and Coordination) および業務遂行能力 (Work implementation) と命名された。

役割遂行能力は、所属する部署の課題を見つけ、分析し、課題解決のための方法を見出し、現在の状況を変える努力を推し進める能力を含んでいる。自己管理能力は、さまざまな人間関係のストレスに対処する能力、仕事と家庭・プライベートの両立ができる能力である。研究能力は、最新の専門的知識と技術を獲得・維持する能力、看護の質の向上を図るために、看護研究に取り組み、研究の結果を発表することができる能力である。実践と調整能力は、患者やその家族を包括的に捉え、アセスメントすることを含めた実践および調整する能力、適切なケアを提供するために看護チームと他の医療チームとの調整を行なう能力などである。業務遂行能力は、予期しないことが生じた場合において、迅速に対応する能力、患者に影響する危機を予測し、療養環境や職場環境を考慮した安全管理ができる能力などである。

開発された CS-SCN の測定尺度の主な活用を以下にあげる。1) CS-SCN を用いた自己評価により、自己の看護能力を振り返ることができ、看護実践能力のレベルをより客観的に把握することが可能となること、2) 看護師は CS-SCN の自分のスコアに基づき、強化する必要がある能力を知ることができ、継続教育や実践を通してこれらの能力を強化することにより看護の能力を高めることに繋げること、3) 病院の看護管理者は、看護の能力を向上させるための研修など、院内外の継続教育を行う前後において、CS-SCN を用いて臨床中堅看護師の能力およびプログラムの評価を行なうことなどに活用できると考えられる。

開発された尺度の内的信頼性の検討のために求めたクロンバッハ α 係数は、全体では 0.93 であり、5 因子においては 0.63 から 0.90 であった。確認的因子分析では、GFI 0.829、AGFI 0.788、CFI 0.898、RMSEA 0.076 であり、モデルの適合度指数は moderate に適合していた。以上のことから、開発された CS-SCN は、中堅看護師の能力を測定し評価するための簡便で、妥当性と信頼性が確認された尺度である。今後、尺度の一般化には、さらなる洗練、テストおよび評価する必要がある。CS-SCN を用いた研究を行なうことにより、臨床中堅看護師の能力の向上を導く可能性が期待できる。

4. 研究成果の意義と学術的水準

今回開発された CS-SCN を用いた中堅看護師の自己評価により、自己の看護能力を振り返ることができ、看護実践能力のレベルをより客観的に把握することが可能である。そのことにより、強化する必要がある能力を知ることができ、継続して能力の向上に繋げることができる可能性がある。この CS-SCN の開発は学術的な水準は極めて高い。

審査は口頭による公開により行ない、方法論に関する知識と技術、当該研究における本論文の位置づけ、関連する研究業績に関する考察と現状の把握がなされることを確認した結果より、本論文が学位論文に十分に値するものであると判断した。